

平成 29 年度 関東クラブ選手権 派遣報告書

2018 年 2 月 15 日 (木)

連盟	東京都実業団連盟	氏名	松浦咲
----	----------	----	-----

(1) 概要

名称	第 31 回 関東クラブバスケットボール選手権大会 兼 第 41 回 全日本クラブバスケットボール選手権大会関東地区予選会	
期間	2018 年 2 月 3 日 (土) ～ 2018 年 2 月 4 日 (日) (2 日間)	
場所	日立市 池の川さくらアリーナ	
日程	<p>2月2日(金)【大会前日】 18:00～ 審判会議 18:15～ 講義① 18:40～ 講義②</p> <p>2月3日(土)【競技1日目】 09:00～ 競技開始 18:30～ 競技終了</p> <p>2月4日(日)【競技2日目】 09:00～ 競技開始 15:30～ 競技終了</p>	
参加 チーム	<p>【男子】</p> <p>《茨城県代表》 CB アルボラーダ、コマーシャルクラブ</p> <p>《栃木県代表》 白鷗大学 B、BREMEN</p> <p>《群馬県代表》 ROYALS、ALSOK GUNMA CLUB</p> <p>《埼玉県代表》 C★M★F★L、Sea Monster</p> <p>《千葉県代表》 六実レイダース、DECEPTION</p> <p>《東京都代表》 弥生クラブ、葛飾バックボーン</p> <p>《神奈川県代表》 横浜ギガスピリッツ、Happy People</p> <p>《山梨県代表》 Stingers、山和</p>	<p>【女子】</p> <p>《茨城県代表》 東海クラブ、Team DADA</p> <p>《栃木県代表》 TBC、女盛</p> <p>《群馬県代表》 富士スバル、TRAIN2E</p> <p>《埼玉県代表》 NAVY、BISCUIT2</p> <p>《千葉県代表》 QUEEN BEE、SWEET☆S</p> <p>《東京都代表》 AFBB、SHINKO STARS</p> <p>《神奈川県代表》 Bright、AOBA</p> <p>《山梨県代表》 鶴友クラブ、吉田クラブ</p>

(2) 報告事項

内 容	
2月2日(金)【大会前日】	
18:00～	審判会議 ・挨拶…稲葉 威氏 ・自己紹介
18:15～	講義① ・北島 寛臣氏 『JBA プレイコーリング・ガイドライン (20180201) について』
18:40～	講義② ・小澤勤氏 『2PO メカニクスについて』
19:30～	審判会議終了

担当試合		
日時・会場	対戦	相手審判
2月3日(土)【競技1日目】 池の川さくらアリーナ	女子1回戦 TRAIN2E 対 東海クラブ	主審：久保 あしみ氏 (千葉) 副審：松浦 咲
ミーティング内容		
主任：古畑 香子氏 ・悪い手や腕、肘の整理がなされていなかった。 ・ファールが起きたら判定をすることはできているが、審判として何を基準にしてファールを判定するのかを示し切れていなかった。 ・Tレフリーの位置が高い。次のプレイを予測することでより良い位置取りができるのではないかな。 【反省を踏まえて】 1日目の審判会議にて行われた北島氏からの講義内容と絡めて所感を述べる。 審判会議で講義頂いた内容は、ハンドチェックの適用基準である。ボールを持っているプレイヤーに両手を使う・片手でも肘を伸ばした状態で触れる・触れ続ける・短時間であるが何回も触れるなどである。これらのハンドチェックを、前半から判定していくことでクリーンな試合展開になることを教えて頂いた。 実際のゲームで、悪い手・腕・肘を整理しようとするが、接触の度合いに重き置き判定出来ず。また、シュートに行く選手のみハンドチェックの適用がないかとフォーカスをしたが為に、シューター以外の選手やポストマンへのハンドチェックが判定できなかった。 ガイドラインにハンドチェックの適用基準が明記されている。また、ケース動画も配信されている為、事前のカンファレンスにて、相手レフリーと共通認識を持って、前半から判定をしていき基準を示していきたい。		

グループミーティング

日時・会場 2月4日(日)【競技2日目】 池の川さくらアリーナ	対戦 女子準決勝 QUEEN BEE 対 AFBB	審判 主審 : 稲葉 威氏 (茨城) 副審1 : 川満 有紀氏 (茨城) 副審2 : 一色 渉氏 (茨城) 主任 : 北島 寛臣氏 (指名)
--	--	--

内容

グループミーティング

【目的】

- ・担当審判員の判定の根拠や考え方、プレイの見方など、参加審判員と共通理解を図り、それぞれが次の審判に活かせること。
- ・ただ単に間違いの指摘をするだけ、非難、否定をする場にならない。
- ・参加審判員は、自分の考えを発言することにより、積極性と責任感をさらに身につけること。

【意見】

- ・ゴールヘカットインをするオフenseに対して、手を伸ばし切った状態でディフェンスをすることについてどのように見ていたのか。
- ・1Q始まって早々にコーチやベンチに座っている選手から、審判に対して過度のアピールがあった。即時にルールに則ってワーニングをすることで、その後、過度なアピールは無くなった。場面に応じた対応で、クリーンな試合展開に繋がり、効果的な様子が見られた。参考にしていきたい。

【上記内容を踏まえて】

北島主任から：試合を通してディフェンスが手を使っているケースが多く見られた。それらを判定出来ているものと出来ていないものがあった。ガイドラインに記載しているハンドチェックの適用基準に当てはまるのかを常に考えること。そして、それらをタイムアウトやクォーター間でクルーと共有し合いながら進めていくことで、3人で一貫した判定基準を示していくことができるのではないかと講評を頂いた。

判定に対して感覚だけで判断をするのではなく、ガイドラインに沿って根拠を持つこと。それが、説得力のある判定に繋がっていくのだと感じた。

所感

今回、初めて関東派遣を経験させて頂きました。関東クラブ選手権大会に参加させて頂き、ありがとうございました。試合を通して、自身の至らない部分を多く知ることができ、貴重な機会でした。判定に至るまでの流れや判定できなかった要因を分析し、次へと繋げて参りたいと思います。

また、初めてお会いする各県を代表する審判の方々や運営に携わられる方々と交流を深められたことも、貴重な機会でした。

最後に、今大会の開催県である稲葉審判長をはじめ茨城県の皆様に感謝申し上げます。また、ご指導頂きました関東協会渡邊整審判長、派遣をしてくださった久保委員長、関東ブロックの審判の皆様にも重ねて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

以 上